

1 次のことわざの□に共通してあてはまる言葉を、それぞれひらがな三字で書きなさい。(各2点)

1 魚□あれば水□

2 □の子は□

3 売り□に買い□

□	□	□
□	□	□
□	□	□

2 次のことわざの□にあてはまる反対の意味の言葉の組み合わせをそれぞれ書きなさい。(両方できて各3点)

1 a □ は □ b □ のもと

a □	b □
-----	-----

2 帯に a □ たすきに b □

a □	b □
-----	-----

3 次の文の□にあてはまる漢字を入れなさい。また、そのことわざの意味をあとのア～エの中から一つずつ選び、()に記号を書きなさい。(両方できて各6点)

1 □ 作ってたましい入れず

2 人の口には□が立てられない

3 とらぬたぬきの□算用

4 月□にちょうちん

□	□	□	□
()	()	()	()

ア うわさはすぐに広まり、止めることはできないということ。
イ 不必要でむだなこと。

ウ 一応できあがってはいるが、大事な点がぬけていること。
エ 不確実なことを期待して、あれこれと計画を立てること。

4 次の文にあうことわざをあとのア～クの中から一つずつ選び、()に記号を書きなさい。(両方できて各8点)

1 祖父は植木職人だが、自宅の庭の木はのび放題だ。()

2 「何もあせることはない。きっといいことがあるよ」と、父は子に声をかけた。()

3 かさを忘れてしまつて雨に降られたうえに、転んでしまった。()

4 約束の時間におくれそうになつたが、確実にわかる道で行くことにした。()

ア 紺屋の白ばかま

ウ 果報はねて待て

オ 急がば回れ

キ かみ結いの乱れがみ

イ 急いで仕事をし損じる

エ 泣きつ面にはち

カ 弱り目にたたり目

ク 待てば海路の日和あり

5 次の文の□にあてはまる言葉を入れて、ことわざを完成させなさい。また、そのことわざと反対の意味のことわざを、あとのア～エの中から一つずつ選び、()に記号を書きなさい。(両方できて各8点)

1 「好きこそ物の□なれ」というように、ピアノが大好きな妹は、賞をもらうほどうまくなった。()

2 両親は絵とは無縁だが、兄はコンクールで優勝して画家になった。「とびが□を生む」とはこのことだ。()

3 かれは大きくはないが、スピードを生かして勝ち上がってきた。まさに「山椒は□つぶでもぴりりとからい」だ。()

4 家のピアノは高級なものではないが、母の奏でる音楽はとても美しい。「弘法□を選ばず」ということだろう。()

ア 下手の道具調べ

ウ うりのつるになすびはならぬ

イ 下手の横好き

エ うどの大木

□
()



「かれ木も山のにぎわい」「は、つまらないものでも無いよりはまじである」「この意味で、自分のことをへりくだつて言ひ言葉だよ。他人のことに使つたり、「人が集まるとにぎやかになる」という意味で使つたりするまちがいに注意しなさい!」



ポイント

文の組み立てには、次の三つの種類があります。

・単文……主語と述語の関係が一組みだけの文。

例 先生が 修学旅行の 持ち物を 説明する。

・重文……主語と述語の関係が二組み以上あり、それらが対等に並んでいる文。

例 弟は 小学一年生で、 兄は 中学一年生だ。

・複文……主語と述語の関係が二組み以上あり、それらが意味のうえで深いつながりをもっている文。

例 雨が やんだので、 試合は 午後から 行われた。

例 私は、 弟が 走る 姿を カメラに 収めた。

① 次の文の主語の右側に——線を引き、述語を□で囲みなさい。主語と述語が複数ある場合は、すべて答えなさい。(完答で各7点)

例 母が兄に帰宅の時間をたずねる。

① 私の姉の将来の夢は幼いころからずっと同じだ。

② かれこそ私たちのチームの代表にふさわしい。

③ 父は母と早朝からゴルフに出かけ、ぼくは友人と遊ぶ。

④ 次から次へと落ちる、君の目から大つぶのなみだが。

⑤ 日曜日の午後、やわらかな自然の光が、私の部屋をやさしく包む。

② 次の①〜③の文は複文です。それぞれの主語と述語の組み合わせを記号で書きなさい。(主語・述語が両方できて各5点)

例 私は 母が 作った スープを 飲んだ。

① 来年の 春、 私たちは 祖母と いっしょに、 空気が おいしい 土地へ 引っこします。

② 小さな 妹が 種を まいた。 アサガオも きれいに さいた。

③ アぼくが 学級委員に すすんで 山田君は、 オみんなも 支持する クラスの 人気者だ。

主語 () 述語 ()

③ 次の文の組み立ての種類をあとのア〜ウの中から一つずつ選び、()に記号を書きなさい。(各5点)

① 荷物が全部入るような大きなかばんがない。()

② その小説の結末に、だれもおどろいた。()

③ 友人が詞を書き、ぼくが曲を作る。()

ア 単文 イ 重文 ウ 複文

④ 次の文の組み立てと同じ種類のものをおのA〜ウの中から一つずつ選び、()に記号を書きなさい。(各5点)

① どうやらその土地の風はとても強いようだ。()

② 鳥がゆうゆうと空を飛び、花が一面にさく。()

③ 弟は、ぼくが話す深海魚の生態に関心を示した。()

ア これは、私の父が小学六年生の時に書いた作文だ。

イ 美しいピアノの音色が、放課後の静かな校内にひびく。

ウ 姉は小さいころから英語を学び、私はダンスを学んだ。

ポイント

「単語」とは、意味やはたらきをもつ最小の言葉の単位のことです。単語は「自立語」と「付属語」に分かれます。

・自立語……その単語だけで文節をつくり、それだけで意味がわかる。

・付属語……その単語だけで文節をつくることができず、自立語のあとについて文節をつくり、意味をそえる。

「単語」には、使い方によって形が変わるものがあります。使
い方によって形が変わることを「活用」といいます。

●名詞(物やこと)がらの名前を表す単語

- ・活用のない自立語です。
- ・主語になることができます。

《例》皿・犬・遊園地・日本・三個・五本・ぼく・これ

●動詞(動作や存在などを表す単語)

- ・活用のある自立語です。

・終止形(言い切り)は「ウ段」の音で終わります。

《例》習う・過ぎる・変える・来る・する・信用する

1 次の単語を [] にあう形に活用させて、書きなさい。(各6点)

1 買う ↓ 新しい服を [] た。

2 くやしい ↓ さぞ [] う。

3 立派だ ↓ 野菜が [] 育つ。

2 次の文の [] の単語を、終止形(言い切りの形)に直して書きなさい。(各6点)

1 約束の時間までに必ず来い。 []

2 かれの意見は正しかった。 []

3 私の兄はがんこな性格だ。 []

3 次の文の [] の単語の種類が名詞ならア、動詞ならイ、形容詞ならウ、形容動詞ならエを [] に書きなさい。(各3点)

・夢に [] 向かって [] ひたむきに [] 努力する [] まじめな

友人と [] 明るい [] 未来を [] 熱く [] 語り合った。

●形容詞(様子や性質を表す単語)

- ・活用のある自立語です。

・終止形(言い切り)は「い」で終わります。

《例》浅い・寒い・強い・重たい・かしこい

●形容動詞(様子や性質を表す単語)

- ・活用のある自立語です。

・終止形(言い切り)は「だ」で終わります。

《例》きれいだ・あざやかだ・明らかだ

●形が変わる(活用する)単語の例

	動詞「聞く」	形容詞「楽しい」	形容動詞「親切だ」
未然形	聞か(ない) 聞こ(う)	楽しかろ(う)	親切だろ(う)
連用形	聞き(ます) 聞い(た)	楽しかつ(た) 楽しく(なる)	親切だつ(た) 親切で(ない) 親切に(なる)
終止形	聞く(。)	楽しい(。)	親切だ(。)
連体形	聞く(とき)	楽しい(とき)	親切な(とき)
仮定形	聞け(ば)	楽しけれ(ば)	親切なら(ば)
命令形	聞け(。)		

4 次の文の中から自立語で活用のある単語をすべて [] で囲みなさい。(すべてできて16点)

・この前図書館で借りて読んだ不思議な物語の本がとてもおもしろかったので、友達にも紹介した。

5 次の 1 ~ 3 の指示に従い、あとの記号を○で囲みなさい。(各6点)

1 [] の単語が形容詞であるほうを選びなさい。

ア 部屋がきたないので片づけましょう。

イ 部屋をきれいに片づけましょう。

2 [] の単語が動詞であるほうを選びなさい。

ア 指先を使った遊びは脳を刺激するといわれています。

イ ぼくたちはいつも公園で野球をして遊びます。

3 [] の単語が形容動詞であるものを選びなさい。

ア 大きな声で友達の名前を呼んだ。

イ かれの口調はいつでもおだやかだ。

ウ これは、ぼくが愛用している自転車だ。

事件らしい事件が起こらない物語はありますが、登場人物が心を全く動かさない物語はありません。場面ごとの、登場人物の気持ちの変化を読み取るようになりましょう。

● 心情の読み取り方

登場人物の気持ちは、どんなことを手がかりに読み取っていいでしょう。確認していきましょう。

(1) 直接的な表現：「うれしい」「悲しい」などの感情表現、「生まれたての赤ちゃんのような気持ち」といった比喻表現など。

(2) 言葉づかい・口調

例 「ちよつと待てよ」

消え入るような声で言う↓さびしさ・自信のなさなど。つかみかかりそうな形相で言う↓激しいいかり・いかくなど。

(3) 情景描写

例 空はまるでぼくの心をうつしたかのような青空だった。

↓表している気持ちと景色が同じ。

例 空はすみきった青だったが、ぼくにはくもり空にしか見えなかった。↓気持ちとは反対の景色。

情景描写は、景色と感情が同じときと、逆なときがあるから注意してね。



● 気持ちの変化の読み取り方

場面ごとの気持ちを比べる

← 変化している場合

変化のきっかけを探す

- (1) 出来事や事件
- (2) だれかの発言
- (3) 登場人物自身の考え方の変化 など

(1)のように明らかな事件があればわかりやすいですね。(2)は、会話のどこかに決定的なだれかの一言がある場合もありますが、会話の流れでなんとなく登場人物の気持ちが変わっていった、という場合もあります。

(3)は、登場人物自身の内面による変化ですから読み取るのが難しいですね。その人物が考えこんでいるような描写や時間の経過がわかるような表現に着目します。「あの時こう思ったんだ」と、あとから回想されるような場合もあります。

例題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「その調子じゃあ、日が暮れちまうよな」
健二はいつものような乱暴な言い方で、美沙のほうに顔を向けて言った。

美沙たちは今、卒業制作として体育館にかざる大きな絵をかいている。有名な画家の絵を細かくモザイクのように分けて、クラスごとに分担し、最後に一枚の絵にするのだ。不器用な美沙は、下書きどおりに色をぬるのに苦労していた。みんなが簡単にできることが、美沙にはむずかしいのだ。

みんなの視線が集まり、^①体が火のようだった。健二のほうを見ることもできない。「どうして……」心の中で美沙はつぶやいていた。健二はいつもそうだ。小さな体の久美が、ゴミ出し当番で、大きなゴミぶくろを運びあぐねていたときも、「もたもたするなよ!」と、おこったようにゴミぶくろをかつさっていった。

そんなことを思っ美沙がうつむいてしまったとき、「じゃあさ、青木は色のうすいところだけぬっていけば?」そしたら、はみ出しても目立たないし、こい色をあとからのせることもできるし、いいじゃん」

と健二が言った。クラスみんなも同意して、みんなでまた色をぬりはじめた。
もしかして……。美沙は^②今までどちがった目で健二をそつと見返してみた。

20

15

1 ———— ①は、どういうことを表していますか。簡単に書きなさい。

2 ———— ②とは、どういう「目」で見たということですか。「今まで」の内容も明らかにして説明しなさい。

★これができる★
★このポイント★

同じ人物の同じ行動でも、見方が変わることで、見方が変わることがあるよ。そこから、見ている人の気持ちの変化を読み取れることがあるよ!



次の文章は古文とそれをわかりやすく説明した文章です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

日本の昔話には、利口な子どもが大人の勝手な言動を逆手にとって鼻をあかす話があります。

ある山寺にたいそうけちなお坊さんがいて、水あめを一人でこっそり食べていました。小僧さん(児)の手が届かないたなの上に水あめをおき、小僧さんに「うそをついて出かけていきました。」

A これは人の食ひつれば死ぬる物ぞといひけるを、この児、あはれ 食はばや食はばやと思ひけるに、坊主他行のすきに、たなより取りおろしける程に、打ちこぼして、こそでも髪にも付けたりけり。日来ほしと思ひければ、二、三杯よくよく食ひて、坊主が秘蔵の水がめを、石に打ちあてて、打ちやぶりに置ききつ。

小僧さんは、たなの上にあるものがおいしいものであると気づいていたのでしよう。お坊さんの留守の間になからおろしてみましたが、うっかりこぼしてしまい、着物にも髪にもあめをつけてしまいました。ふだんから食べてみたいと思

っていたものですから、食べてしまいます。そしてこのあと、何を思ったか、お坊さんの大切な水がめを石にぶつけて割ってしまいます。

B 坊主帰りましたりければ、この児さめほと泣く。「何事に泣くぞ」と問へば、「大事の御水がめを、あやまちに打ち破りてさふらふ時に、いかなる御かんどつかあらむすらすらむと、口をししく覚えて、命生きてもよしなしと思ひて、人の食へば死ぬとおほせられさふらふ物を、一杯食へども死なず、二、三杯までたべてさふらへども大方死なず。はてはこそでに付け、髪に付けてはべれども、いまだ死にさふらはず」とぞいひける。

なるほど、お坊さんのうそを逆手にとったのですね。あめは食べられ、大切にしていた水がめは割られ、小僧さんの知恵によってけちなお坊さんはさんざんな目にあつたというわけです。

『沙石集』(一部省略) ※解説はZ会オアシナル

35

30

15

20

25

1 ①とありますが、「食はばや」とはどのような意味だと考えられますか。次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。(15点)

- ア 食べてしまおう イ 食べなければ ウ 食べたい エ 食べてはならない

2 Xの、「うそ」にあたる部分を引用部分Aの中から十五字以内で書きぬきなさい。(20点)

Grid for text extraction

3 ②とありますが、なぜそうしたのでですか。次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。(20点)

- ア 自分にうそをついたお坊さんをこらしめるため。 イ 水あめがなくなったことをかくそうとするため。 ウ 自分がどれほどあめが食べたかったのかを示すため。 エ お坊さんにしかられないように芝居をするため。

4 小僧さんは自分が泣いている理由をどのように説明しましたか。次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。(20点)

- ア お坊さんが大切にしている水がめを割ってしまったので、死んでおわびをしようと思ったが死ねないから。 イ お坊さんがうそをついていることに気づいたので、こまらせてやろうと思ったから。 ウ お坊さんがいない間、こっそり水あめを食べようとしたら、あやまって水がめを割ってしまったから。 エ おいしい水あめを食べることができないのなら、生きていてもしかたがないと思ったから。

5 ③とありますが、「さんざんな目」とはこの場合どのようなことですか。書きなさい。(25点)

Blank box for answer to question 5